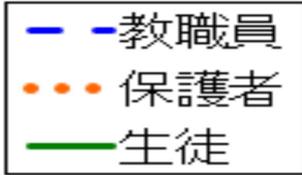


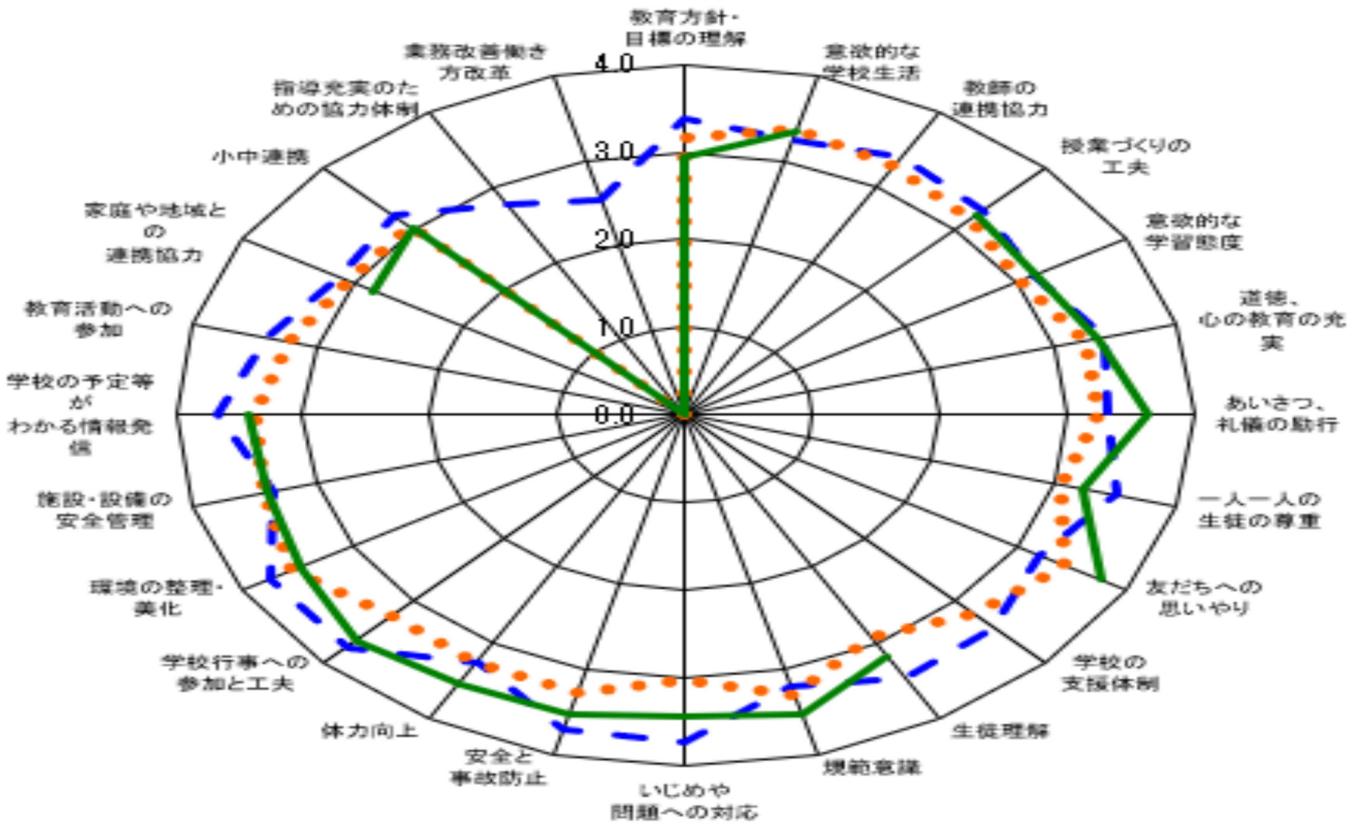
令和4年度 玉南中学校学校評価「自己評価」の結果報告書
 玉名市立玉南中学校
 校長 松野 保生

このことについて、下記のとおり報告します。

- 実施期間
 生徒、保護者、教職員 令和5年1月12日（木）～令和5年1月18日（水）
- 学校評価の結果



令和4年度



	学校教育目標		教科指導		道徳教育		人権教育		特別支援教育		生徒指導		健康教育		学校行事		学校環境		情報公開		家庭・地域と		〔学校独自〕		〔学校独自〕	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
生徒	2.9	3.3		3.2	3.2	3.4	3.6	3.2	3.8		3.2	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6	3.5	3.4	3.4		2.8	3.0				
	4.3の割合	80	89		92	83	93	96	92	100		87	94	95	95	94	96	98	95	95		63	75			
保護者	3.2	3.4	3.3	3.2	3.0	3.3	3.2	3.0	3.4	3.2	2.9	3.3	3.0	3.3	3.3	3.2	3.6	3.4	3.4	3.2	3.1	3.0				
	4.3の割合	92	94	91	92	90	93	91	81	98	90	77	94	81	94	93	92	100	96	92	90	84	81			
教職員	3.4	3.3	3.4	3.3	3.2	3.4	3.3	3.5	3.2	3.4	3.5	3.2	3.7	3.7	3.3	3.8	3.8	3.3	3.7	3.4	3.1	3.2	2.8	2.5		
	4.3の割合	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	71	62	

3 成果と課題

(1) 保護者アンケートから

- 3と4の合計の割合が80%以上の項目は、22項目中21項目(95%)である。
- 特に評価が高いのは、「意欲的な学校生活(3.4)」「友達への思いやり(3.4)」「環境の整理・美化(3.6)」「施設設備の安全管理(3.4)」「学校の予定等がわかる情報発信(3.4)」である。
- 評価が低いのは、「生徒理解(2.9)」「いじめや問題への対応(3.0)」「小中連携(3.0)」「意欲的な学習態度(3.0)」である。

(2) 生徒アンケートから

- 3と4の合計の割合が80%以上の項目は、19項目中17項目(89.5%)である。
- 特に評価が高いのは、「あいさつ、礼儀の励行(3.6)」「友達への思いやり(3.8)」「学校行事への参加と工夫(3.6)」である。
- 評価が低いのは、「教育方針・目標の理解(2.9)」「家庭や地域との連携協力(2.8)」「小中連携(3.0)」である。

(3) 職員アンケートから

- 3と4の合計の割合が80%以上の項目は、24項目中22項目(91.7%)である。
- 特に評価が高いのは、「安全と事故防止(3.7)」「学校行事への参加と工夫(3.8)」「学校の予定などがわかる情報発信(3.7)」「いじめや問題への対応(3.7)」「環境の整理・美化(3.8)」である。
- 評価が低いのは、「家庭や地域との連携協力(3.1)」「学習指導充実のための協力体制(2.8)」「業務改善や働き方改革(2.5)」である。

4 対策

- (1) 「教育方針・目標の理解」について保護者、教職員の意識・理解に比べて生徒の意識が低い。「目指す生徒の姿」について生徒会を中心にワークショップにより具体的に話し合う機会を設ける。また、集会や行事を通して本校の目指す教育目標をしっかりと伝えていくとともに、行事などでも教育目標を達成するためのスローガンを設定し活動に取り組みさせる。
- (2) 「家庭や地域との連携」については、コロナ禍にあり十分な連携活動ができていない。また、広報不足も原因と考えられる。更に、ホームページ等を利用して広く地域や保護者に広報していとともに、地域貢献の活動、小学校と連携した活動を設定していく。
- (3) 生徒指導・教育相談における「生徒理解」「いじめや問題への対応」については保護者・生徒、教職員間で意識にややずれが見られる。これらの問題については個人的に生徒を指導することが多く、学級指導の中でも具体的に事案を紹介して全体を指導することはほとんどないため、指導している側と指導されている側では意識のずれが生じたと考えられる。学校では、いじめや問題行動に対してそのまま放置することなく、教育相談やいじめアンケートを通して生徒から出てくるサインを見逃さず情報集約担当者を置き、今後も適切な対応に取り組んでいく。
- (4) 教育課程、学習指導の充実・改善における「学習指導拡充のための協力体制」「業務改善や働き方改革」について、他の項目に比べると教職員の評価が非常に低い。「学習指導拡充のための協力体制」については、加配教員の効果的な活用や特別支援教育支援員などと連携した支援のあり方を再度検討していく。また、「業務改善や働き方改革」については、推進校の実践例を参考に日課表や校務分掌の見直しなど負担感の軽減により一層取り組んでいく。